

令和6年度各会計別決算認定に係る賛成討論

議案第 95 号「令和6年度甲府市各会計別決算の認定について」および議案第 96 号から 102 号までについて賛成の討論を行います。

令和6年度は、新型コロナウイルスの取り扱い変更から1年が経過し、市民生活はじめ社会経済活動が以前の活力をとり戻しつつあるものの、じわじわと押し寄せる物価高騰が新たな懸念材料として我々の前に立ちはだかり、予断を許さない状況であったといえます。

樋口市政3期目の折り返し点であり、現総合計画の期間満了を1年後に控えるこの時に、議決目的どおりに執行されたか否かはもちろん、目指す都市像実現にどれほど近づいたかを検証する必要があるという意味で、令和6年度の決算は例年にも増して重要な意味をもちます。いただいた税金の使い道を検証することは、市民から負託を受けた議会が果たすべき最優先の役割です。

私は今回の審査の主眼を総合計画に照らしてどれだけの事業が執行され、成果をあげたか、および、そのための経費が財政の持続可能性のうえで、無理なく効果的に使われたか、の2つの切り口から確認し、その妥当性について検討しました。

最初に、まず、何といたっても現市政のキーワードであり、わが公明党が2,006年に策定した「少子社会トータルプラン」～チャイルドファースト社会の構築を目指して～と理念が合致する「子ども最優先」がどのように展開されたかです。

子育て支援における伴走型支援の導入、そして、わが党が初めて取り

上げ、今や次の担い手を育てるうえで大きな課題という認識が共有されているヤングケアラーの支援に市を挙げて取り組んでいることが明らかとなり、このことは、未来への投資という意味でもその方向性は大きな賛辞を贈りたいと思います。

さらに、子育てという面から子ども応援プラットフォームを活用した子どもの未来を応援する施策を積極的に展開しており、まさに私がかって主張した「子どもをど真ん中に置く」考え方が今や市民権を得たと意を強くしているところです。

また、次代を担う主体的存在としての重要な子どもたちの活躍の場、意見表明の場づくりに継続して取り組み、甲府ドリームキャンパス、私の地域・歴史探訪、甲府ラーニングスピーチといった、開府500年レガシー事業の取り組みを通じて、甲府に戻って来たいという背中を押すこうふ愛の醸成に資するなど、これまで提言したことが連綿と事業の中に息づいていることは特筆すべきです。

第2点として、新たなまちづくりの方向性が示されている点です。

人口減少と若年層の市外流出といった地方都市の宿命的な課題に敢然と立ち向かったのが令和6年度ではなかったでしょうか。

県央やまなし合同企業説明会やメタバース空間の活用による就職のマッチング機会の創出に力を入れ、せっかくの優良企業の情報がうまく届かないことによる経済的損失を回避しようという努力が見えます。

さらに中心市街地の魅力のブラッシュアップとして、まちなかエリアプラットフォームによる議論、子育て世代の来街機会の創出と回遊性・滞留性の向上に焦点を当てた取り組みなど、スローライフも意識したライフスタイルへの転換が芽生えつつあると評価します。

あわせて、甲府の水道水の内外へのアピールとともに、これとセットのプラスチック削減に向けたマイボトル運動を後押しする給水スポットの取り組みは、ウォーカブルなまちづくりという点で、新たな方向性をそこに見出します。

また、関係人口創出という面もある半農半Xの取り組みもスタートし、これまで以上に甲府の魅力の発信に力を注いでいることがうかがわれます。

こうしたことが、東京一極集中をはねのけ、幾多の地方の中から甲府が選り取られえる大きなきっかけとなっているものということができ、この10年間の取り組みが実を結びつつあると実感されます。

第3点として、いのちと健康を守る共生社会の実現に向けた取り組みです。

わが党が提案したがん患者へのアピアランスケア支援事業であり、また先進国のなかにはもうすぐ撲滅宣言ができるまでに予防が進んでいる子宮頸がん対策です。

検診とのセットにより予防効果が圧倒的に認められ、国において積極勧奨が復活したHPVワクチンのキャッチアップ接種に鋭意取り組み、マザーキラーといわれる子宮頸がんの撲滅に向けた強い決意がうかがわれます。

また、共生社会の実現に向けた、性的マイノリティに関する周知、啓発活動を通じた人権尊重・男女共同参画推進もダイバーシティという見地からその取り組みは高く評価されるべきであり、私がこれまで主張してきた、ソーシャルインクルージョンの考え、すなわち一切を包摂し、みんな違って当たり前、自分と異なるものを決して排除しないという考え方が浸透してきたと高く評価します。

さらに動物との共生という面から、生命尊厳という崇高な理念のもと、保健所設置以来強力に取り組んできた、不妊去勢手術費用助成と譲渡会の実施も特筆すべき点です。

このように、もうすぐ期間満了を迎える現行総合計画がめざす都市像実現に向けて様々な事業が効果的に展開されている一方、財政運営の面からみると、健全化指標が示すように、極めて良好な運営ということができ、限りある財源を効果的に配分し、選択と集中を見事に体現していることに

この10年間の市政運営が議会からの提言を受け入れながら、市民福祉の増進のために最大限の努力をしてきたというべきであり、令和6年度はその流れを一層確実なものとして次の10年へつなげる1年間であったと大いに評価するものです。

以上のことから、議案第95号から第102号までの令和6年度の決算については異議なく認定すべきであると強く主張いたします。